豪雨による氾濫被害抑制への考え



創政クラブ
岩 垣 和 彦

問 異常気象とされていた線状降水帯やゲリラ豪雨等が通常気象に変化しつつあるなか、市中心部を流れる宮川をはじめ、住宅密集地の江名子川や苔川が氾濫すれば大災害に直結する。これら氾濫防止策と総合的治水対策として、上流への調整池や沈砂池の設置が急務であるが対応は。

答 河川改修は岐阜県の河川整備計画に基づき行われているが、調整池は有効であり、江名子川については調整池の建設が位置づけられている。今後、気候変動を踏まえた河川整備計画見直しの際は、河川改修を基本としつつ江名子川以外にも調整池の建設を含め、県と連携し対応する。

建築費急騰と健全財政、両立の決意は!?



創政クラブ
倉 田 博 之

問 期待の大きい著大事業の推進は。

答 安易な先送りなどしない。



人口減少社会における今後の広域連携のあり方について



無会派
小井戸真人

問 広域連携の必要性はますます高まっていると考えるが、市長は広域連携についてどのような方向性ですすめる考えか。

答 広域連携については、政策分野によっては市単独で実施するよりも広域で連携したほうが、住民サービスが効率的なこともあり、それぞれの足りないところを補うという視点も持っていくことができる。人口減少がすすむ飛騨地域にあって、3市1村の広域連携による取組の必要性、重要性は十分に認識しており、柔軟に対応するとともに、飛騨地域全体を見据え、引き続きしっかりと連携を図っていきたい。



市長選挙で示された民意と今後の市政運営について



みんなで未来をつくる会
丸 山 純 平

問 今回の市長選挙では、田中市長が23,155票を獲得して再選された一方、相手候補にも21,216票が投じられた。市長は、この結果をどう受け止めているか。また、相手候補が示した政策や市政課題のうち、今後の市政運営において検証・検討すべきものは具体的に何か。

答 投票率が前回を上回ったことは、市民の皆さまが高山の将来へ関心を持ち、それぞれの思いを投票で示したものと受け止めている。相手候補の政策や課題も、市民の関心や問題意識が表れたものであり、高山を良くしたいという方向性は共有できる。自らの公約を実現することで、相手候補に投票した市民の思いや期待にも応えていく。